

四卷

電子複写不可

防衛研究所図書館

評台
沖 鋼
376



昭和十六年一月

昭和十六年度第一回大隊
業務檢查計畫表

獨立步兵第十大隊

LC 31032
Cincpoa-Cincpoa
E-176//
OKINAWA 18 May

305
~~63066~~

昭和十八年度第一回大隊兵器検査計画表

一 方針 針

本年度兵器三關の部隊長、方針ニ基キ各隊ノ實態狀況
特ニ現品書類ノ保存整備狀況ヲ檢シ幹部以下兵器
三關ノ知識ノ程度ヲ重要要員ノ實狀況ヲ檢シ以テ兵器

取扱及保管整理ノ向上改善ヲ期スルニ在リ

現品検査主眼ノ現品員數ノ明確ニ定數外新特別支

現況ヲ知悉シ 給別ノ區分整備シテリヤ

整備ノ完全トシ保存ノ入使用取扱ノ適否ヲ檢シ之ノ適否期入

損傷未燃防ノ修理ノ事否修理實施ノ狀況檢シ之ヲ適確ニ計ル

故障ノ恢復命ノ程度狀況ヲ檢査シ交換補給ノ資料トス

取精度ノ延長ノ機能ノ良否ヲ檢シ之ヲ修手入事ノ適確

ヲ圖ルニ在リ
一 ヲ計ル

三 書類検査
1 検査計畫書調製整備シテリヤ
2 帳簿ノ記録整理ニ於ケル違法脱落誤記
ナキヤヲ檢ス

整理ノ適確
過誤ヲ予防シ
處理ヲ迅速ス
4 其他書類全般ノ共通事項トシテ
歩向ニ次與ス

(1) 關係條規ニ合致シヤリヤ
ハ記載適確ナリヤ
品目單位誤
誤記・脱漏
同記帳計算
確ナリヤ
相互連繫ノ確實ナリヤ
ハ庶務流滯過誤
ニキヤ
ニキヤ
ノ牽涉ノ所
滑筒捷
適確ニテ
修心明テ

四人の検査

1 兵器ノ尊重愛護心ノ涵養状況
2 兵器使用取扱保存手入検査等ニ關スル技能状況
3 幹部ノ職責遂行ノ状況ヲ檢シ之ヲ改善向上セシム
4 諸規定ノ研究理解解法ノ現況親來主義ノ徹底ニテ
支部隊長ノ方針ニ則テ實施シテマツルヤ

五全般事項

1 兵器検査實施手順ハ附表第一ニ加シ
2 検査係幹部以下ニ對シテ兵器ノ保存手入取扱検査法
實施法ニシム
3 検査書類ハ附表第二ニシテ検査當日其順序ニ案
ニ列シタルニシ

4 兵器ニ關スル機械圖書類ハ受檢ノ際健ニ揃ヒ準備シ
タルシ

5 兵器現況報告トシテ左記事項ニツキニ部洞製表ヲ檢
査前々頁ニ提出スルモノトス

左記

- (1) 主管兵器ノ整備保存程度ノ概況
- (2) 亡失毀損補給整備状況
- (3) 彈藥所耗方針ト整備ノ状況
- (4) 手入材料ノ支給状況
- (5) 中隊ニテ兵器ニ關シ現ニ執リタル具體的各種手段
- (6) 兵器ノ尊重愛護ノ維持ニ實施シタル手段方法及

其結果

(1) 兵器ニ關スル幹部教育ノ状況

(2) 供用兵器ニ對スル施設彈藥在庫品倉庫ノ状況

(3) 作戰警備訓練等ニ即應セシムル爲メ創意工夫シタル

状況

(4) 兵器業務及兵器ニ關スル意見希望ノ實績

(5) 各隊ニ主管シタル兵器中今遠隊若ハ他隊ニ派遣携行

セシナル員數ハ附表第三様式ニ依リテ詳報スルモノ

トス

(6) 各隊ニ附表第四様式ニ依ル受檢兵器品目員數

表ヲ四部洞製表員數ニ提出スヘシ

五 受檢兵器配列要領

1 凡テ兵器ハ定數・定數外押收兵器ノ區分ヲ明ニシ配列ス

3. 員數検査ニ便ナル如ク品目毎ニ單位區分シ甲乙丙丁ノ程度順ニ配列ス

（甲ハ充分ナルモノ、大隊ニテ加修シ得ルモノヲ含シ）乙ハ加修度大ナルモノ
丙ハ廢品程度ナルモノ、使用シ得ルモノ、丁ハ廢品程度
ニシテ直ニ更替ラザルモノ

4. 故障毀損箇所（主要箇所ヲ可）及主要屬品耐屬品等ノ不足アルモノ及廢品程度ノモノハ其旨ヲ表示シ配列ス
5. 配列場所ハ各隊毎ニ光線ノ關係ヲ顧慮シ式可日光光ノ潛入ヨキ場所ヲ選定スヘシ
6. 精二火砲・銃精密器機等ハ風塵ノ直射日光等ニ對スル考慮ヲ拂フモトス
7. 腹中膨張（糞モ含シ）及痔瘻ノ原因ニ依ル毀損品等ハ當

該兵器ノ最後尾ニ配列ス

凡テ手入ヲ十分ニ實施シ持シ腔中其他各機關部ノ過剩油類ニ元分ニ拭掃シ機能点檢ニ便ナル如ク配列スルモトス

及袋及表ハルモノハ之ヨリ脱シ置クヘシ

8. 主要ノ耐屬品類ハ其附近ニ配列シタルヘシ

9. 兵器履歴表其他検査ノ参考トナル關係書類ハ検査時直ニ見得ル如ク置キ置キナルヘシ

10. 検査品目ハ作戰警備ニ支障ナキ範圍ニ行フモノナルモノカ

無種類數量ノ不明瞭ナラサル様注意スヘシ

11. 小銃ノ員數ニ脱シ腔中程度順ニ遊底ヲ離脱シ各銃約ニ下種ヲ備テ成可ク机上ニ配列スヘシ

12. 軍刀銃劍ハ車具ヲ取外シ銃ニ挿入シ各處鯉口は水

ト上方ニシテ(劍)身ノ程度順ニ配列スルモノトス

八機筒銃ハ分解スルコトナク程度順ニ配列シ屬品ハ附近

ニ配列シ特別分解ニ要スル兵ヲ附隨セシメ置クモノトス

九拳銃擲彈筒ハ囊ヨリ脱シ配列ス

一〇火砲ハ斬撃等姿勢ヲ配列シ浩塞螺ヲ脱シ得ル如ク準備

備シ諸車輛ノ蓋板ヲ開キ收容品ハ抽出シ置クヘシ

◎二白動車及側車ハ運行検査ニ便ナル如ク準備シ機關部

其他検査ノ為所要ノ運轉兵ヲ差出シ置クモノトス

又屬品附屬品類ハ其附近ニ配列シ置クモノトス

三通信機材

一電話機、無線機類機能点檢ヲ實施シ得ル如ク

尚無線機ハ所要ハ取扱兵ヲ附シタルモノトス

二被覆線ハ袋ヨリ脱シ程度順ニ配列ス

三日光通信機及照明燈類ハ火光機能ヲ検査シ得ル

如ク準備スルモノトス

四眼鏡類ハ直射日光ニ當ラル位置ニ裹ヨリ脱シ置クモノトス

五携帶兵器革具乘輓駄馬具等ハ凡テ各部品毎ニ分

解シ程度順ニ配列ス

◎一六彈藥燃料等ハ格納儘トシ抽出検査シ得ル如ク準備

スルモノトス

一七彈藥ハ各品目毎ニ格納要図ヲ附シ算數表ヲ記入シ

検査ニ便ナル如ク準備シ置クヘシ

其他細部備シテハ其都度指示ス

受檢書類品目表

名	種	摘要	名	種	摘要
兵器受拂配當簿		昭和五	訓令訓示	級	兵器業務ニ 關スルモノ全部
特別支給兵器受 拂配當簿		一六年度 分	講評	級	(編成次第)
兵器諸証票綴			渡輪末輪	級	
兵器履歴表		巻備光 手全部	策務録	級	(新校共)
諸規定綴			教育書類	級	
兵器制式簿			兵器検査計画表	級	
渡輪末輪綴			兵器損耗表	級	
兵器受拂配當簿			諸統計表	級	
演習用簿		昭和十三 二四十五	同綴	級	補修材料ノ 簿等ヲ提出 ノコト
校次簿			兵器用物品受拂	級	
演習用簿		二六年度	受拂心証憑書類	級	
受拂簿		悉皆	其他中隊ニ於テ調 製シタル準備書類	級	

考 附

一提出書類ハ特ニ明示シ非サルモノハ昭和十五年
度ノミトシ各隊ニ於テ研究工夫シ不々準備
シタル書類ハ悉皆提出スルモノトス

附表第三

保管兵器配備區分表 第何中队

品目	區分		規定		現在			定過 (足不)	理由
	部	隊	部	隊	部	隊	計		
三十二年式軍刀	一五		3				2	(2)	不足 (三)何對生於 何對生於 何對生於 何對生於 何對生於
三十年式銃剣	一七〇		20	2			2		
三八年式歩兵銃	一七〇		20	107			2		
四年式拳銃	一五		2	13	15	3	2		
			1	13	15	3	2		
			2	10	11	2	2		
			2	5	5	2	2		
			2	1		1	2		
				8			2		
			三	三			三		
			(2)				2		

調製上、注意

一本表、各各隊(各分遣隊)配當別、
 區分ヲ明確ニ記載スルモノトス
 二 過不足理由ヲ明瞭ニ記入ノコト
 三 用紙ハ半白紙トス

検査員區分表

品目	區分	品目		區分
		銃	銃	
三十二年式軍刀		銃	銃	大屋軍營
十四年式拳銃		銃	銃	
三八年式輕機甲銃		銃	銃	
三八年式輕機甲銃		銃	銃	
三八年式輕機甲銃		銃	銃	
大西少尉	藤本伍長	藤本伍長	藤本伍長	信濃軍營
藤本伍長	藤本伍長	藤本伍長	藤本伍長	
特別支給品一切	第一類 第三類	第一類 第三類	第一類 第三類	藤本伍長

附表第四

受檢兵器品目表 第一 中隊

品目	總數	現在				不足理由	備註
		甲	乙	丙	丁		
三十年式重方(乙)	五	一	二				
三十年式銃劍	一七〇	五〇	五〇	五〇	二〇	同令部等三〇 同令部等三〇	
三八式步兵銃	一七〇	八〇	九二	一〇	七〇	右同	

以下同断

調製上ノ注意

- 一 木表ハ各主管者ニ於テ各受檢地部隊毎ニ調製スルモノトス
 - 二 兵器ト兵器用物品ハ別紙ニ調製ス
 - 三 兵器ハ更ニ銃砲視具彈藥器材化學戰資材毎ニ別紙ニ記載シ特別支給ハ其末尾ニ記入スルコト
 - 四 總數欄ニハ附表第三現在數ヲ現在數欄ニハ檢査當日ノ受檢數ヲ記入スルモノトス
- 此邊手見ノ檢査場備三記載ノコト
- 六用紙ハ洋白紙トス

昭和十五年八月三十日

昭和十五年八月
兵隊將校下士官
集合教育時要望

独立歩兵第十大隊

昭和十五年度部隊長兵器關スル方針

一 兵器尊重愛護心養成

二 將兵兵器知識向上

三 幹部検査眼向上検査勵行

四 彈藥節約上危害防止

五 自動車整備上燃料節約

六 通信器材整備

七 兵器整備上是總論

八 兵器整備上至正務局總裁

九 信賞二徹上四則一嚴云

兵器係(將校) 教之月出席者連名表

昭和五年八月廿日
鈴木部隊

隊區分	兵器係將校官氏名	同下士官官氏名
第一中隊	陸軍步兵少尉 田中正信	陸軍步兵軍曹 伊藤源太郎
第二中隊	陸軍步兵曹長 大越武代(理)	陸軍步兵等兵 服部勇造
第三中隊	陸軍步兵少尉 兼本良男	陸軍步兵伍長 穴戸良三
第四中隊	陸軍步兵少尉 岸科 篤	陸軍步兵伍長 坂本四郎
自動車班		陸軍步兵軍曹 安齋徳治
通信隊		陸軍步兵等兵 町田丈一
乘馬班		陸軍步兵伍長 藤根重男 陸軍步兵軍曹 伍島時夫

兵器と訓練の關係 (一) 兵器の訓練

一、兵器と訓練の關係、如シ此、大要の見地、
 基キ兵器、保存忠實、取扱及手入れ、完璧ヲ
 期スル中隊、遂ニ備討伐等、於ケル成果、期シテ
 疑ハサル者ナリ、而シテ、取扱、取リツ、アル手続方
 法ニ於テハ、日暮キテ、道遠キ、感、意キ、エ、アラヌ
 六、ニ、テ、ハ、國軍、盛衰ヲ、左右シ、小、一、兵、自
 兵、戰、テ、完、タ、ス、列、ラ、シ、ム、茲、ニ、於、テ、幹部以下團
 軍、兵器、間、ス、ル、重要、性、ヲ、認識シ、兵器、保存、忠
 實、ノ、完、璧、ヲ、期、ス、ラ、レ、ル、コ、ト、ヲ、望、ム

以下重要事項、就テ、部隊、年度方針、基キ、實
 行手続及方法ヲ、説明ス

兵器尊重、愛護、信心、ヲ、養成、シ、テ、

各件、軍隊、兵器、間、ス、ル、通、訓、語、ヲ、如、ク、所、有、機
 會、於、テ、上司、ノ、訓、示、講、演、等、依、リ、屢、々、述、ベ、ラ、レ、ル
 ト、シ、テ、之、ヲ、實、績、ノ、向、キ、於、テ、ハ、甚、ク、寒、心、耐
 工夫、シ、實、績、ノ、向、上、ヲ、期、ス、ラ、レ、ル、コ、ト、ヲ、望、ム

其方法、ニ、三、例、ヲ、示、シ、テ、之、ヲ、行、フ、ヲ、督、勵、ス

(一) 中隊長、兵器、對、シ、テ、理、解、シ、熟、意、ヲ、示、シ、望、ス、之、カ
 局、兵器、間、ス、ル、精神、教育、ト、與、實、行、罰、ヲ、嚴、シ、ス、ル
 等、推、奨、ノ、最、高、美、義、ヲ、採、用、シ、絶、ハ、ス、心、的、別、裁、ヲ
 與、ハ、ル、コ、ト

(二) 掛下士官、指導、於、テ、過、重、ナル、任、務、ヲ、負、担、セ、レ、ル
 列、兵、某、隊、於、ケ、ル、掛下士官、ニ、テ、曾、長、身、務、ノ、半
 數、ヲ、分、擔、セ、ラ、レ、アル、上、兵器、掛下士官、ト、シ、テ、服、務、セ、
 ン、ガ、ル、如、キ、或、ハ、某、隊、於、テ、分、哨、長、退、番、勤、務、
 等、一、般、下、士、官、ト、同、様、ノ、取、扱、ヒ、ラ、レ、ル、如、キ、之、ナ、リ
 同、ヨ、リ、人、自、作、取、扱、等、無、異、ニ、依、リ、一、律、ニ、行
 カ、サ、ル、之、令、課、下、士、官、重、大、業、務、完、遂、ノ、為、ニ、相

... (Faint vertical text on the right edge of the page)

2. 歐洲其他各師訓練中、於其生起之秋、爾及故
陣、就其家階、的確、運轉、學堂、ト共之、他部
隊、運轉、及、其、如、其、運、送、給、養、ヲ、望、ム

4. 軍隊幹部、學堂、本、科、若、然、使、用、ス、ル、兵、器、及、其、他、
備、材、以、等、其、特、別、能、力、高、ク、兵、器、注、入、部、品、物、品、
・至、ル、迄、運、送、機、械、日、取、扱、平、入、等、間、以、其、配、令、及、
兵、器、之、運、送、機、械、ヲ、研、究、シ、習、味、シ、兵、使、用、之、於、
狹、兵、活、止、美、点、助、長、努、力、如、幹、部、研、鑽、シ、
要、ス

5. 本部、於、其、樹、將、決、下、士、官、集、合、教、育、ヲ、每、月、一、回、
ヲ、得、サ、レ、隔、月、毎、一、回、ヲ、如、計、劃、シ、テ、
本、部、所、在、地、幹、部、之、會、合、時、其、他、機、ヲ、見、テ、講、
話、或、現、物、教、育、之、体、ヲ、示、シ、増、進、ヲ、計、ラ、シ、テ、
精、進、意、教、育、ヲ、計、劃、シ、テ、

6. 軍隊、出、身、工、務、兵、兵、中、隊、幹、部、進、修、部、度、向、
上、之、努、力、ヲ、望、ム、ト、兵、器、識、能、
向、上、ノ、努、力、ヲ、望、ム

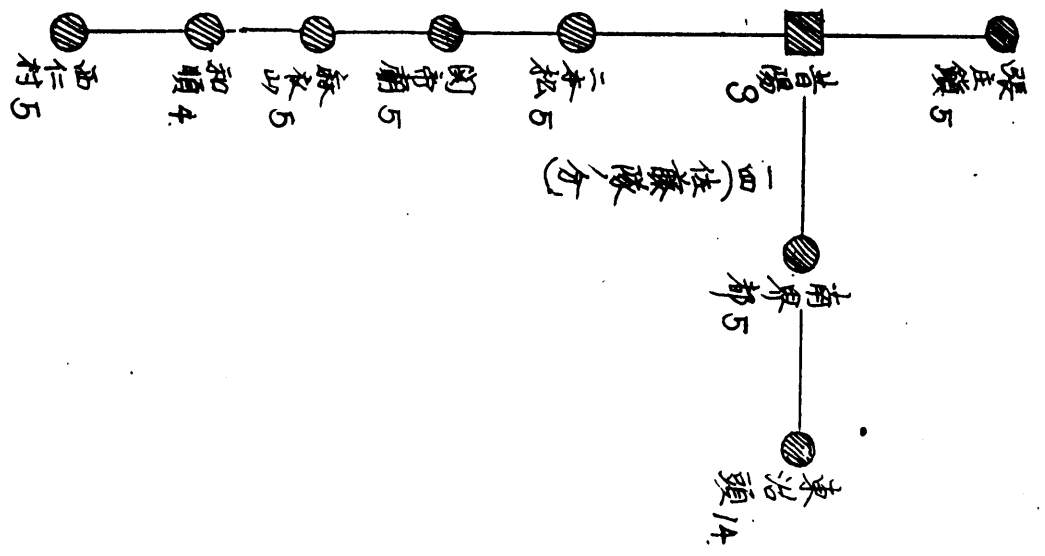
以上、如、ク、項、目、別、々、揚、ゲ、ル、一、部、部、過、キ、
ナル、以、テ、各、隊、ニ、於、テ、凡、有、自、度、ノ、研、究、
ニ、天、シ、探、求、是、等、實、績、状、況、ニ、列、シ、テ、隔、意、
無、キ、意、見、交、換、一、中、隊、一、要、員、一、班、一、班、
經、連、給、努、力、以、テ、兵、器、知、識、向、上、ト、中、
隊、兵、器、ノ、研、究、的、研、究、向、上、ノ、努、力、ヲ、望、ム

以上

經... 隊別 覽者數 折舊數 計

手榴彈發射筒西巴備一覽表

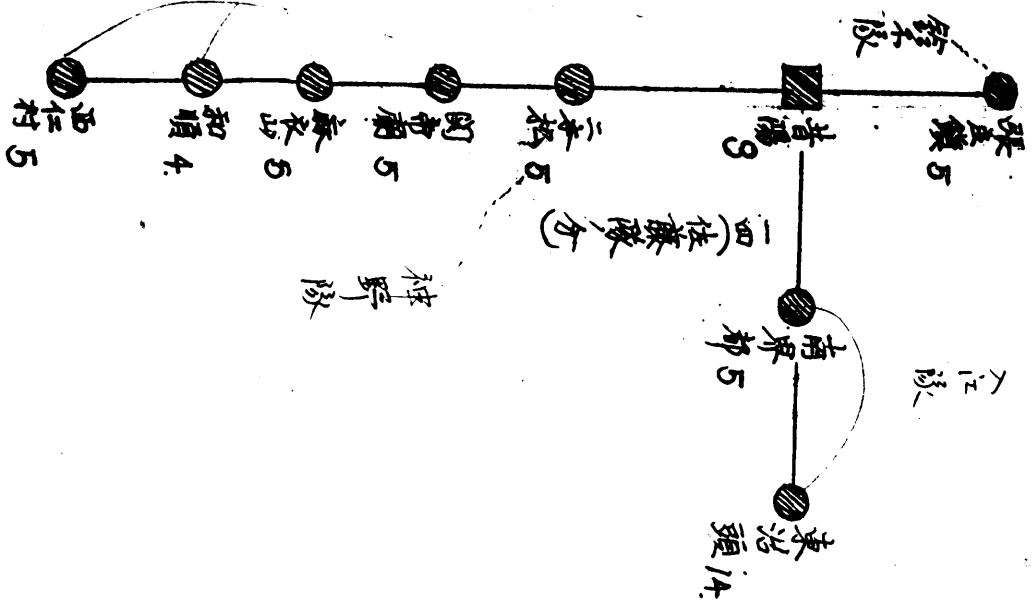
隊別	覽者數	折舊數	計
安則隊	三	一〇	一三
入江隊	四	一五	一九
小林隊	四	一五	一九
佐藤隊	四	一〇	一四



全縣各鄉鎮中區隊...

手榴彈發射筒配備一覽表

隊別	號數	新舊數	計
安烈隊	三	一〇	一三
入江隊	四	一五	一九
小林隊	四	一五	一九
洪應隊	四	一〇	一四
在部			



8

東莞縣政府通志卷之四

二十一 廣東省米穀調查表

年次	品名	單位	1933	1934	1935	1936	1937	1938
民國二十六年	米	粳						
		秈						
民國二十七年	米	粳						
		秈						
民國二十八年	米	粳						
		秈						
民國二十九年	米	粳						
		秈						
民國三十年	米	粳						
		秈						
民國三十一年	米	粳						
		秈						
民國三十二年	米	粳						
		秈						
民國三十三年	米	粳						
		秈						
民國三十四年	米	粳						
		秈						
民國三十五年	米	粳						
		秈						

兵器委員會議關係書類目錄

兵器關係將校及彈藥係下士官
合同教育開始二當り
軍兵器部長演習旨 一部

兵器部長業務連絡書
教育實施ノ際於
軍兵器部長演習旨 一部

兵器業務關係ノ將來之企圖及本年度
兵器勤務ニ関スル指示 一部

兵器掛會場主任部隊長要望事項ノ敷衍就
高級參謀口演習旨 一部

兵器班長口演習旨 一部

兵器業務實施ニ関スル細部注意事項 一部

軍隊内務書銅領兵器關係ニ就テ 一部

彈藥補給一般ノ要領 一部

彈藥ノ取扱ニ就テ 一部

爆破用新爆藥火具ニ就テ 一部

彈痕ニ依ル銃身廢兵器檢定要領 一部

彈藥ノ貯藏ニ就テ 一部

各種火藥ノ性能及用途ニ就テ 一部

各種彈藥諸元一覽表 一部

兵器專重心向上ノ爲幹部
トシテ執ルハキ具體的ノ方法 一部

迫撃砲射撃關スル參考 一部

兵器關係將校及彈藥係下士官
合同教育開始ニ當リ

軍兵器部長口演要旨

昭和十六年二月
三十一日

皇軍大陸轉戦ニテ既ニ五年入り軍ノ光輝アル歴史ト内外情勢
重大時期ニ於ケル其ノ重責トニ鑑ミ愈々盡忠報國ノ至誠ヲ發揮シ
軍任務達成ニ精進スヘキ年ニ當リ茲ニ第一線各方面ヨリ諸官ヲ集
メ其壯容ニ接シ合同教育ヲ開始スルハ誠ニ欣快トスル所ナリ

合同教育ノ目的ハ主トシテ兵器業務實施上着意スヘキ細部及彈藥
種類ヲ取扱保存ニ深刻ニ教育シ兵器業務及技能ノ向上ヲ期スルト共
ニ彈藥ノ威力發揮及危害防止ニ関スル着意ヲ徹底セントスルニ
在リ故ニ勉メテ實物實際ニ就キ教育ノ徹底ヲ期スヘキヲ以テ克ク

實習体得シ歸隊後之ヲ關係方面末梢迄普及徹底セシム今次教育ノ效果ヲ顯揚スルヲ要ス以下此機會ニ於テ主トシテ彈藥關係ニ對スル本職ノ所懷ト要望トヲ披瀝セントス

一、兵器戰力ヲ最高度ニ發揚スルコト

軍ハ任務上寡兵ヲ以テ衆敵ニ對シ常ニ必勝ヲ期スル如ク不斷ノ作戰計伐ヲ遂行シテアリ而シテ限定セル編成裝備ニ於テモ作戰ニ即應シ戰機ニ投シ兵器戰力ヲ常ニ最高度ニ發揚シ一彈必中一撃必殺無故障ノ域ニ達スル如ク兵器ノ整備活用ニ勉メサルヘカラス故ニ兵器尊重心及識能ノ向上取扱保存ノ徹底補給修理ノ勵行等

皆前掲ノ目的達成ニ向ヒ指導シ兵器勤務ノ運轉モ之ニ向ヒ指導シ

即チ我ヲ戰力ハ敵向ヒ悉ク兵器ヲ通シ發現セラル、事實ニ鑑ミ兵器ノ状態ヲ常ニ最良ナラシムルハ戰場ニアル將兵ノ責務ナルコトヲ深ク銘心セシメ兵器ニ對スル關心ヲ一層振起徹底セシムル如ク指導シ之カ勵行ヲ望ム

一、銃砲火器命中精度ノ増進

銃砲火器ノ威力ノ發揚ハ命中精度ノ増進ニ俟テサレハカラス之カ為ニハ射撃ニ関スル教育特ニ優秀ナル射撃技能ノ完成ヲ要スレド勿論ナレモ銃砲火器ニシテ腔中塵埃機能不良衰損大ニシテ又彈藥ノ種類ニ等ノ整備不十分ナリカ到底銃砲固有ノ命中精度ヲ維持

發揮シ得サレノミナラス戰機ニ適合スル威力ノ發揚困難ニシテ單ニ彈藥ヲ空費スルニ過チカレシテ而シテ効力ナキ射撃ハ敵ニ對シ損害ヲ與ヘサルノミナラス敵ヲシテ我ヲ輕ニスルニ至ラシムルヲ銘心スヘシ今ヤ聖戰年ヲ重マルニ從ヒ銃砲火器ハ不斷ノ作戰討伐ニ伴ヒ逐次使用ノ繁激ヲ加衰損ヲ來スヘキヲ以テ絶ヘスニテ使用發射彈數ニ注意シ手入保存ヲ良好ナラシメ所要ニ應ジ適切ナル加修ヲ行フト共ニ使用彈藥ノ選定ヲ良好ニシ常ニ命中精度ヲ良好ニ維持且増進スル如ク着意ヲ周密ナラシムルヲ要ス

三 彈藥ノ節用

彈藥ノ使用ニ當リテハ彈丸効力ヲ知得シ最モ有效ナル如ク之ヲ節用スルヲ要ス餘糧總數ノ算入ノ際ハ
藏等萬般ニ亘リ尚改善ノ餘地少ナカラサルモノアリ即チ射耗彈ト敵ニ与ヘタル損害トヲ比較スルモ尚彈藥ノ節用及其有效使用ノ必要多キヲ痛感セシム而シテ彈藥ノ大部ハ内地ヨリノ遠送ニ俟タサルカラサル現況ニ鑑ミ彈藥ノ効力發揮及節用ニ関シテハ一般ノ考慮ヲ一兵ニ至ル迄徹底セシムルト共ニ格納貯藏運搬等ニ於ケル保存取扱ニ注意シ長期保存ニ依リ生スル効力ノ減退ヲ豫防スルヲ要ス
又特種彈ノ使用ニ當リ其目的使用彈數等威力發揮上不十分ナルカ如キ消費ハ避クル如ク注意ヲ望ム

四 彈藥類ニ起因スル危害ヲ絶無ナラシムルヲト

彈藥類ニ起因スル危害ノ種類ハ雜タルモ之ヲ次ノ如ク大別シ得ヘシ
ハ腔發及暴發ニ依ルモノ

腔發其ノ被害甚大ナルヲ常トシ其原因彈丸信管ニ依ルモノ
裝填不良殊ニ重裝填逆裝填等ニ依ルモノ等種々ナルモ
常ニ彈藥ノ整正備ニ着意シ裝填法ニ注意ヲ加レハ現制兵
器ニ於テハ之カ絶無ヲ期シ得ヘシ而シテ軍内ニ於ケル腔發ノ實例
ニ徴スルモ前述ノ注意十分ナラス或ハ押收彈藥ヲ混入射撃手シ又
ハ調製舊キ彈丸ヲ混入シ或ハ二重又ハ逆裝填ニ依リ生シタルモ
ノニシテ正當ノ手段ト注意トヲ加ヘ腔發セル前例ナシ又且暴發ニ至リテ

ハ注意十分ナラサルニ依ルモノニシテ先般代員與ハ統返納ニ係リ
實包裝填ノ儘返納シ補給廠ニ於ケル整理ノ際工員ヲ負傷セシ
メタル例アリ彈藥ノ出納射撃手後ノ點檢ヲ層確實ニシ不事ノ
危害ヲ絶無ナラシムルヲ要ス

2. 格納貯藏及運搬間ノ不注意ニ依ルモノ
格納貯藏ノ方法適切ナラス不注意ニ依リ落失シ使用後信管
等ノ安全栓ヲ裝スルコトヲ忘ル等ノ原因ヨリ不慮ノ危害ヲ生
スルコトアリ還送彈藥中安全栓ヲ裝シアラサルノ又ハ空藥莖中ニ
實包ノ混入セルモノ等其例少ナカラス特ニ注意ヲ加フルヲ要ス

3. 不發彈藥ノ處理不十分ナルニ依ルモノ
不發彈藥ノ處理正規ニ合ヒス或ハ不發彈藥ヲ拾得シ不慮ノ危

害ヲ受ケタル例少ナラス此種事故ハ種々ノ關係上貴相ノ明確ニモラ
ル事少ナキヲ一級トスルヲ以テ同一過失ヲ再ヒスルコトアリ

戰場ニ散在スル彼我不發ノ處理ニ関シテ合理的處置ヲ行ヒ不注
意ニ拾得シ取扱ヲ誤ル等ニ依リ危害ヲ受ケサル如ク注意ヲ徹
底セシムルヲ要ス

六 押收鹵獲彈藥取扱上ノ不注意ニ依ルモノ

押收鹵獲彈藥取扱之際シ不注意ヨリ生スル事故及不良彈
藥ニ對スル爾後ノ處置ニ缺クルモノ等事變以來其例少ナシトセ
ス故ニ此等ノ彈藥類ノ取扱ニ特ニ注意ヲ加ヘ未知ノモノニ對シ不

注意ニ依ル危險ヲ防正スルコトニ對シ深甚ナル注意ヲ望ム

銃器特ニ拳銃ノ暴發ニ依リ他人ヲ殺傷スルモノ

銃器特ニ自動拳銃ノ失檢取扱不注意ノヲメ暴發シ他人ヲ
殺傷セル例少ナカラス取扱ノ失檢法ヲ完全ナラシムルヲ要ス

以上ノ外彈藥取扱細則其他諸規程ニ定メラレアル諸件ニ違反
スル如キハ論外ニシテ此矣焦ト注意ノ徹底ヲ要望ス

五 兵器毀損亡失特ニ彈藥ノ亡失防止ニ就テ

兵器ヲ尊重愛護シ死生榮辱之下俱ニスル精神ヲ顯揚シ兵
器ノ毀損亡失ヲ絶無ナラシムルコトニ関シテハ之カ勵行ニ努力ヲ拂ハレ
アルモ同時ニ彈藥ノ亡失ニ関シテハ第一類兵器ト異ナリ射耗スヘキ
モノナル關係上注意深刻ナラサシ矣アリ殊ニ敵軍ノ實狀ハ彈藥

類ノ缺乏ヲ來シアル今日一彈ト雖モ之ヲ七失ニ敵ニ利用セラレサル如ク更ニ取締ヲ嚴ニシ出納ヲ確實ナラシメ彈藥ノ有效ナル活用ヲ圖ル如ク指導ヲ徹底シ又支那側警備隊等ヨリ彈藥ノ流出ヲ防止シ其出納ノ確實ヲ期スルヲ要ス

六、化兵彈藥類使用上ノ着意ニ就テ

化兵彈藥類ノ使用ニ際シテハ其特性ニ鑑ミ效カラ十分發揚スル如ク着意ヲ周密ナラシムルヲ要ス之カ為使用目的ヲ確立シ敵狀地形殊ニ氣象ノ状態ニ注意シ豫想スル效カ發揮ニ必要ナル彈種彈數等ヲ計畫シ最大威カラ發揚スルコト必要ナリ故ニ普通ノ作戰ニ於テハ主トシテあか系彈藥類ノ補給スルコト、シ其他ノ化兵彈藥ヘ教育用ヲ除キ常時補給ヲ行ハス之カ必要ナル使用方面及時期テミ補給シ其效果十分發揮センコトヲ期セラレツアルヲ以テ之ノ趣旨ニ基キ使用上特ニ注意ヲ望ム

七、彈藥交付ニ際スル技術的着意

彈藥關係將校下士官兵トシテ彈藥交付所其他ニ於テ彈藥交付業務ヲ執ルニ際シ技術上着意スヘキ事項ノ主ナルモノハ次ノ事項ニシテ細部ニ関シテハ今次教育ニ於テ説明セシムルニ付テ十分實行スル如ク着意ヲ望ム

八、卸下集積彈藥ノ點檢整理

九、彈藥ノ口ノ整理

3. 被補給部隊ノ裝備火器ニ應スル彈藥ノ整備
4. 彈ト藥筒ノ信管トノ一致
5. 補給部隊ノ彈藥詰替作業ノ援助
6. 狀況ニ應ジ信管裝著作業ノ實施
7. 不良彈藥ノ揆分並ニ處置

八 彈藥點檢ノ勵行

彈藥ノ補給格納使用等ニ當リテハ點檢ヲ勵行シ異常ノ有
 無ヲ調査シ故障危害ヲ未然ニ防止シ效カヲ十分發揮セシム
 ルニト緊要ナリ特ニ外觀全然同一或ハ類似ノ彈藥筒ハ區分標
 識ヲナシ誤用ヲ防止セラレドモ之カ尙或セルモノナシトセザレバ以テ

記ノモノハ點檢ヲ十分ナラシムルヲ要ス

三式野砲
 改裝六八砲
 九式野砲
 四式騎砲

彈藥ト九四式山砲彈藥

十五式平射步兵砲彈藥ト九四式三七花砲彈藥

九二式步兵砲彈藥ト九四式七糧戰車砲彈藥

八 彈藥ヲ開梱シ内容品ノ異常ヲ査檢スル場合ハ次ノ各項ニ着

眼スル如ク教育ノ徹底センコトヲ望ム

八 彈藥收容箱ノ吸濕破損

2 防濕裝置ノ不良

3. 彈帶著シキ打痕及起

4. 彈帶特ニ定心部著シキ發銷及打痕及起

5. 藥莢著シキ打痕發銷

6. 信管裝者ノ不具合

7. 信管接續筒各種小ねぢ底螺等ノ緊定不良

8. 爆管ノ螺者不良者シキ發銷

9. 分離藥筒ニ於ケル藥莢蓋裝定不良

10. 彈藥筒ノ彈軸ト藥筒軸ノ不一致

11. 彈藥特ニ爆藥火具特種彈藥筒類ノ吸濕

12. 信管ノ安全栓避宮栓等ノ裝置不良

13. 藥盤式信管ニ於ケル安全位置ノ裝定不良

14. 信管ノ著シキ發銷藥盤式信管ノ測合不能

15. 火具銃用彈藥等ヲ收容セルモノノ内容品ノ動搖等

九. 季節地形ノ兵器ニ及ボス影響

戰場ニ於ケル季節地形ノ兵器ニ及ボス影響ヲ豫知シ

之ノ對策ヲ十分ニシムルコトハ兵器ノ機能・彈藥ノ效力發

揮上特ニ緊要ナリ。

現在冬期ニ於テハ將兵ノ耐寒被服ヲ用フル如ク兵器ニ對

寒裝備及處置ヲ講ヤザルベカラス

即チ耐寒脂油ト交換シ各對寒上ノ注意ヲ實行スルコトニ
レナリ又春期凡塵季ニ於テ防塵ニ對スル處置ヲ講ジ塵
埃ニ依ル故障ヲ未然ニ防止セザルベカラス斯ノ如クシテ始メ
兵器ニ對スル季節ノ交感ヲ未然ニ防過シ其ノ機能
感カヲ十分發揮シ得ルモノニシテ地形ニ對應スル處置モ
亦同様ナルコトヲ銘心シ機ヲ失セズ之ニ関スル教育及實行
ヲ十分ナラシムル如ク注意ヲ望ム

之ヲ要スルニ部隊ニ於ケル兵器勤務ハ上司ノ指導ト
諸官ノ努カト依リ逐年進歩シ良好トナリツアルモ

細部ニ至リテ尚刷新改善ヲ要スル点モ亦數カラザル
情ニシテ彈藥關係ニ於テモ前述ノ如ク刷新向上ヲ要スル
點數カラザル現狀ナルヲ思ヒ今次教育ノ成果ヲ普及
實行シ益々努カラ倍茲ニ協力致積極的任務ノ
達成ニ邁進シ其完璧ヲ期ヤンコトヲ切望ス

昭和十六年三月十四日 乙集團兵器部長 平野潔

兵器部(班)長業務連絡並ニ
教育實施ノ際ニ於ケル
軍兵器部長口演要旨
照一六一二八
乙集團兵營

皇紀二千六百一年、新春ヲ迎ヘ帝國建國以來
未曾有ノ内外情勢重大ナル時機ニ際會シ軍ノ
光輝アル歴史ヲ更ニ顯揚シ任務達成ノ重責ニ
協力一心精勵スヘキ年頭ニ於テ茲ニ諸官ト會同
スル機ヲ得其壯容ニ接シ兵器勤務刷新向上ニ
關シ審議スルハ誠ニ欣快トスル所ニシテ其ノ意義
深キコトヲ痛感スルヲ以テ更ニ本職ノ所懐ト要望
トシテ披瀝セントス

一昭和十六年度兵器勤務ニ関スル指示ニ就キテ本
件ニ関シテハ最ニ印刷送付シ置キタルモ其意
要旨ニ鑑ミ更ニ此ノ機會ニ於テ本職所懐ノ細部

ニ亘リ開陳シ之カ徹底ヲ期セントス、以下別紙ニ就テ口述スニ、先^{兵器関係}及^{彈藥係下士官合同教育ニ就テ}、今次定^{教育ノ目的}、主トシテ、兵器業務、実施上著意スヘキ細部及彈藥類ノ取扱保存ヲ深刻ニ教育シ兵器業務及技能ノ向上ヲ期スルト共ニ特ニ彈藥ノ威力發揮及危害防止ニ関^二、期^一、着意ヲ徹底セシムルニアリ、故ニ教育期間短期ナルモ勉メテ、実物實際ニ就キ教育シ之カ徹底ニ努カシ且教育開始ニ當リ別紙ノ口演ヲ行ヒ必要ナル參考資料ヲ配布セシメタリ、

將來之カ十分ナル普及徹底ヲ期シ本教育ヲ端

超非常時局ニ對處シ軍内兵器勤務上特ニ考慮スヘキハ總ニル事態ニ對シ必勝且不動兵器戰術ノ完成スルト共ニ帝國々策遂行ニ協カスルニ、之カ爲メ先ス必要ナル兵器殊ニ彈藥ノ整備ヲ完成スルヲ期スルト共ニ極力兵器持^ニ彈藥及^ニ資材ノ要護節用並ニ有効ナル使用ニ勉メ一層積極的ニ現地資源ノ利用開發ニ努カシ以テ帝國ニ於ケル尙^ニ、國防國家建設ノ促進ニ協カ寄与スル如ク、^{教育ニ關スルコト緊要ナリ}、故ニ此趣旨ニ合致スル如ク兵器勤務上萬般ニ亘リ刷新充實ヲ計リ一億一心時難克服ニ協力邁進我責務ヲ全ウセンコトヲ切望ス

四第一類兵器ノ補填手續ヲ迅速ナラシムル
第一數兵器ノ毀損亡失ニ際シ其報告及代品請求
等ノ手續著シク遲延シ其間重要ナル兵器ヲ缺
教トナラシムルハ適當ナラス

例ハ八事定發生後數ヶ月甚タシキニ至リテハ
昭和十三年當時ハモヲ請求スルモノアリ
毀損亡失ヲ根本ニ亘リ絶無ナラシムル如ク努力ス
ルハ勿論之等ノ事故發生シタル場合ハ其調査及
處置ヲ迅速ニシ速ニ規定ノ手續ヲ採ルヲ要ス且
下第一類兵器ノ予備甚少シ補填ニ時日ノ手續
トヲ要スル現況ニ於テ特ニ然リトス

五彈藥燃料及各種資材ノ補給ニ就テ
算定シ必數ヲ缺クヘカヲ教員ヲ請求スルコトニ
放任シ流ニトテ深ク戒メ國策ニ沿ヒ作戦上必要ナル補給ノ完遂ヲ期
スル如ク各部隊一致協力シ此等ノ節用及有効ナル使用ニ徹スルコトニ關シ
指導監督ヲ強化セラレントヲ望ム

之ヲ要スルニ軍兵器勤務上司ノ指導ト關係諸官ノ努力トニ依リ逐
年向上進歩シツテ前記ノ如ク超重大時局ニ當リ更ニ徹底改善
ヲ加スルニ必要ナル鑑ミ益々業務能率ヲ向上シ教育指導ヲ
強化シ協力一致ノ層積的任務ノ完遂ニ邁進シ以テ重責ヲ全フ
セラレントヲ望ム

昭和十六年一月二十八日 乙集團兵器部長 平野 照

兵務業務之關係將來之企圖及本年度
兵務勤務之指示
昭和十三年二月八日
兵山部隊兵務班

一兵務業務之關係將來之企圖

昨年兵務本員會議席上於配布セル企圖事項ニ基キ更ニ徹底
的ニ之カ實現ヲ期セシム
尚企圖事項ノ内容ヲ具體的ニ述ベルニ次リ如シ
兵務尊重愛護ノ精神ヲ向上徹底ス

(一) 核心ヲ強固ナラシム

(一) 幹部將士級將校隊長ノ兵務關心ヲ益々擴充強化シ不動ノ核
心トシテ常ニ精神教育賞罰及檢査ヲ勵行シ且兵務部先以模
範ヲ示シ部隊本部補給廠之ニ則リ次々全部隊ニ及ボシ以テ率先
垂範ノ實ヲ發揮ス

(二) 軍兵志ノ實情特ニ從來ノ缺陷ヲ知悉セシメ之カ對策ヲ明示シ或ハ
各種資料ヲ印刷配布ス或ハ報告通報ヲ利用シ或ハ檢査視察

ニ懇諭シ更ニ施設ヲ適切ニシテ之カ不備ニ基テ缺陷ナキニ至ラシム
 四部隊ニ於テ使用スル兵器ニ兵士雖モ生存スル限リ亡夫絶無ヲ期
 四各部隊ノ臨時兵器検査ヲ實施ス
 二兵器ニ関スル識能ノ向上ヲ期ス

一 樞軸ヲ形成ス
 二 兵器班ノ員各部隊ノ業務関係者及工務兵教育ノ勵行ト其ノ自奮自勵トヨリ兵器知識ノ樞軸ヲ形成シ將兵ヲシテ常兵
 三 親身シ之カ保存取扱使用法ニ精通セシム

三 兵器教育ト戰斗訓練内務トヲ併行シ日進日新及復累積努力
 ノ創意工夫ト資料ノ準備トヲ督勵シ實施ノ監督指導ト相俟
 ツテ實功ヲ收ムルニ至ラシム

四 兵器ニ関スル計畫未作製部隊ハ新ニ作製提出セシメ其ノ實施ヲ
 監察補正スルト共ニ各種ノ書類掛圖模型等ノ教育資料ヲ提
 供ス

四 備置及整理ノ系統ヲ確立シ且問題ヲ請シ教育ヲ實施セシム
 各段ノ手段ヲ盡シテ成績ヲ挙ゲシム

六 兵器關係者當道ニ有力ノ集合教育ヲ實施ス

三 彈藥ノ新用ト危險防止遺骸ナカラシム

一 一発必中ノ精神ヲ涵養ス

二 兵器ノ精進ヲ維持シ信頼度ヲ印揚セシメ十分ナル自信力ヲ涵養
 セシム

四 彈藥ノ格納保管施設ヲ改善セシメテ不良彈藥ノ取扱ヲ制止
 品同標ヲラシム

四 彈藥ニ関スル教育ヲ完全ニシ且彈藥取扱ニ関スル注意各方面
 之ニ對シテ參考事項ヲ細大トナク印刷配付シ絶エス刺激ヲ與フ
 五 班長各部隊視察ニ必ズ彈藥格納庫及貯藏所ノ完全格納
 法彈藥取扱法等ヲ對シ視察試問ヲ實施ス特ニ最前線
 及中線

（一）本長官兼署長處分の的確たること。特二兵団六代ノ際ハ特ニカ處
置ヲ明示シ實行ノ結果ヲ報告セシム

（二）光學兵器ノ保存取扱ヲ向上徹底ス

（三）幹部ノ知識ノ向上取扱使用ノ限度ト其ノ特質トヲ知悉セシム

（四）保存取扱法ヲ原則ニ研究教育セシム且北支ノ特性ニ應ジテ
愛護保存法ヲ深刻ニ理解實行セシムト共ニ過去ニ於ケル戦事計
伐及季節ニ於テ故障毀損ニ夫等ノ實例ト對策トヲ周知セシム

（五）事前ノ事故防止ヲ確實ナラシム

（六）検査ヲ勵行セシムテ精度維持ト保存ノ完全トヲ期セシム

（七）本兵器ノ特別整備補充ノ困難ナルコトヲ強調シ且限定セテ使用取扱
者ノ責任ヲ重視シ其ノ自覚ヲ喚起セシムテ指導ト相俟ツテ之カ
保存取扱ノ向上ヲ期セシム

5. 自動車整備保存ノ教育並ニ燃料節約ヲ徹底ス

（一）自動車ニ関スル識得及技能ノ向上ト自動車使用ノ節約ヲ期セ

ノ單ニ於テ實施セラルル自動車ニ関スル集合教育ニ最大限ノ意
ヲ派遣ス

（二）冬期自動車使用取扱ニ関スル各部隊將校（下士官教育）

（三）自動車使用ノ節約

（四）特幹部ノ自覺自制ヲ強調シ又兼馬自轉車洋車ノ使用ヲ推奨ス

（五）燃料ノ作數ヲ除キ基準量以外ニ交付セラル主義ヲ徹底シ以テ自動車
車節用ヲ強制ス

（六）部品ノ補給ヲ促進シ且之カ製作及廢部品ノ再生利用ヲ督勵ス

（七）燃料ノ節約

（八）自動車使用規定ノ嚴重ナル履行ト相俟ツテ自ラ消費量ヲ節約

（九）各部隊ノ自動車運轉狀況表ノ嚴密ナル點檢ニ依リ自動車ノ燃
料使用狀況ノ適否ヲ監督ス

（十）月別進應役車輛ト不應役車輛トヲ調査シ燃料ノ交付及消費

各部隊内燃機関運轉狀況表ニ依リ燃料消費狀況ヲ監督ス

(一) 各部隊内燃機関運轉狀況表ニ依リ燃料消費狀況ヲ監督ス
(二) 地方自動車一覽表ヲ調製シ燃料ノ流出及不正防止ニ資ス

(三) 國境復兵各整備上適切ナル運用ヲ期ス

(四) 種類員數把握ヲ一層的確ナラシム

(五) 國境復兵器押收兵器ノ調査ヲ周密ニスルト共ニ其ノ報告ヲ卒直ナラシメテ自己本位ニ立脚スルカ如キコトナカラシム

(六) 各部隊ニ増加整備シテ小銃自動火器類ハ更ニ成シ得ル限リ對式及口径ヲ統一シ之ヲ制式兵器同様ニ取扱ヒ補給整備ヲ完

全ニシ且簡易化セシムト共ニ要式ハ毀損品ノ死藏ヲ絶無ナラシ

四 整備セル兵器ヲ以テ各部隊戰力自衛力ヲ合理的ニ増強シ且

那側諸機關ノ整備ヲ逐次充實セシム文那側諸機關中縣警

察及警備隊ニ對シ銃裝備數ハ各標準人員決定標準上

者ハ其ノ50%後者ハ其ノ65%ヲ自洽トス

ハ調査ノ的確ト後送ノ簡易化ヲ期シ且獎勵方法ヲ講ス

(一) 國內資源ノ現狀ト現地自治主義ト一層強調理解セシメテ各部

隊整備地域ニ於テル資源ノ調査蒐集方法ヲ具體的ナラシムト

共ニ之ニ關シ謀知及其ノ利用ヲ推奨シ以テ蒐集ニ躍動セシメ且

關係機關ヲシテ更ニ主動積極的ニ深ク進出セシム

(二) 資源回收ニ關シ統制アル指導ト理解アル實行トヨリ效果ヲ收メ

シテ共ニ回收物件ノ一覽表比較表後送資材統計表等ヲ期

調製シ以テ自他ノ效果ヲ對照シ反省ニ供ス

(三) 人數配置ニ伴ヒ後送ヲ簡易化スル爲巡迴拾收班ヲ派遣シハ

補給用空車高ク利用ヲ勵行セシム
五 民間業者ニ對シテ官撫ト併行的ニ實施セシム主義ノモトニ其ノ是

集擔任區域ノ實情應ニ積極的活動ニ便ル如ク身分證明書

ヲ與ヘ又現地部隊ト連絡法ヲ教示スル指導ヲ一層具體的ナ

獎勵方法が猶無形的及記録的ヲ主トシテモ物質的方法ニ関シテ
究シ實施セラレシコトヲ上司ニ要求ス

基礎的統計資料及教育資料ヲ蒐集活用ス

(一) 正確ナル資料ト機ヲ失セサル報告トヲ求メ且簡切ナル製表技術ヲ
養成シ之カ調製普及ヲ利用法トテ徹底セシム

(二) 左記如キ統計及資料ノ作製ヲ一層促進ス

(三) 兵器ニ関スル教育資料集

(四) 兵器美談集

(五) 消費彈藥ト敵ニ與ヘル損害トノ比較表

(六) 敵ノ敗兵力遺棄死体鹵獲兵器一覽表

(七) 兵器毀損ト失統計及部隊別比較表

(八) 燃料使用統計(累計)比較表

(九) 創意工夫事項一覽表

(十) 自動車電程對燃料消費價格表

(十一) 各部隊有(無)線通信網一覽表

(十二) 各集表ニ目的精神ヲ明示シテ整備セシメ教育ノ資ニ供シ
用ニ活用セシム

昭和十六年度

兵器勤務ニ関スル要綱

別冊乙係團兵器勤務計回要領及ヒ昭和十六年度兵器勤務ニ
スル指示ニ基キ兵器勤務ノ成果ヲ顯揚セシトス

各部隊ニ於テ前記書類ヲ進繩トシ部隊ノ實情ニ即應ス如ク其
現實行方取計ハ年度

兵器部會同席上ニ於ケル部隊長要望
事項ノ敷衍ニ就テ

兵器委員

皇軍大陸轉戰シテヨリ既ニ四星霜ヲ至
軍ノ光輝ヲ發揮スヘク第五年ニ入リ時局ハ愈
々重大ニシテ皇軍精兵ハ北ニ廣漠千里
黑龍河ニ臨ミ南ハ熱砂流汗全身ニ覆
フ佛印ニ轉シ盡忠報公ノ至誠ヲ發揚
シ陸ニ海ニ皇軍ノ威容ハ燦然ト輝キアル時
吾等又山嶽重疊タル峻嶮ノ第一線ニ

皇軍ノ威容ハ燦然ト輝キアル時
吾等又山嶽重疊タル峻嶮ノ第一線ニ

器各位ノ賛同會集ヲナシ部隊兵器飛
躍的刷新向上ノ爲教育懇談スル期
會ヲ得タルハ誠ニ同慶ノ至ニ堪ヘス厚ク平素
協力ニ対シ御禮申エクルト共ニ先般軍務
ニ實施セラレタル兵器及彈藥關係業務
普及徹底ト兵團兵器委員教育ニ於ケル
要望事項ヲ教育シ以テ將來ノ爲業務
實施上ノ着意スヘキ事項ヲ申述ヘテ
ニ次頁セントス

軍兵器部長ノ要望事項ニ就テ

一兵器戦力ヲ最高度ニ發揚スルコト

寡兵ヲ以テ衆敵ヲ擊破シ必勝ヲ期スル爲ニハ兵
死生榮辱ヲ共ニスル精神ヲ堅持シ兵器尊重
心ノ徹底的養育或ハ技能ノ向上取扱保存ノ徹底補給
修理ヲ勵行シ彈藥ニ至リテハ一彈必中一發必殺
故障ノ域ニ至ラシムルコト

ニ銃砲火器命中精度ノ増進

ノ命中精度ノ増進發揮

ニ衰損ノ未然防止ト之カ対策

3 發射彈數ニ注意シテ入保存ヲ良好ナラシム
4 彈藥ノ選定ヲ良好シテ命中率ヲ良好ニ維持スルコトノ
着意ヲ周密ニスルヲ要ス

ニ 彈藥ノ節用

- 1 彈丸ノ效カヲ知悉シテ之ヲ有效ニ節用スルコト
- 2 使用格納貯藏等百般ニ互リ改善向上スルコト
- 3 射耗彈ト敵ニ与ヘタル損害トヲ比較研討スルコト
- 4 保存取扱ト效カ減退ヲ予防シテ之ヲ兵ニ至ル迄徹底スルコト

5 特種彈ノ威力發揮ニ注意スルコト

四 彈藥類ニ對スル危險ヲ絶ナラシムルコト

- 1 腔發及砲發ニ依ルモノ
- 2 煙丸ノ信發ニ依ルモノ
- 3 裝填不良ニ至リテ眞正裝填ニ依ルモノ
- 4 押收彈藥ノ整理不十分ニ依ルモノ等注意スルキ矣ヨリアリ
- 5 尚格納貯藏及運搬間ノ不注意等
- 6 不發縮以藥處理不十分ナルモノニ依ルモノ
- 7 銃及霰彈ノ銃ノ暴發ニ依リ他ヲ殺傷セルモノ
- 8 兵隊等ノ失火特ニ彈藥ノ亡失ニ就テ
- 9 元生家辱ヲ共ニスル精神ヲ顯揚スルコト

2 彈藥ノモトハ第一類兵器ナルコトヲ感銘セシム

3 敵ニ利用セラレサルコト

4 有效ナル活用ヲ圖ルコト

六 化學彈藥類使用上ノ着意ニ就テ

1 使用ニ際シ效ヲ十分ニ發揚スルコト

2 使用目的ヲ確立スルコト

3 其ノ系彈ノ使用方法等

七 彈藥交付ニ対スル技術的着意

1 卸下準備彈藥ノ矣候整理

2 彈藥ノ口ノ整理

3 被補給部隊ノ裝備火器ニ対スル彈藥ノ整備

4 彈ト藥筒 彈ト信管ノ一致

5 彈藥詰替作業ノ援助

6 状況ニ應ジ信管装着作業ノ實施

7 不良彈藥ノ選汰及処置

八 彈藥点檢ノ勵行

1 口述ス

九 季節地形ノ兵器ニ及ボス影響

ノ戰場ニ於ケル季節地形ノ兵器ニ及ボス影響ヲ予知シ之

カ対策ヲ考究シ效力發揮ニ務メルヲ

2.之ヲ爲耐寒脂油耐寒時ノ注意風塵季ニ対スル防塵處置

3.季節ノ交感度ヲ顧慮スルコト等ナリ

以上軍兵器部長ノ口演ハ徹底スルト共ニ當兵團長高級參謀兵器班長ノ口演要旨ハ印刷配布シ之カ説明ヲ敷衍シ以テ今回ニ於ケル兵器業務研究會同ノ自的ヲ達成セントス
各位ノ奮勵協力ヲ望ム處ナリ

尚細部ニ亙リテハ計畫表ニ依リ順序ヲ逐ヒ教習月指導シ本年度度ニ於ケル部隊兵器業務ノ畫期的向上ト作戰警備ノ推進助長ニ資セントス

昭和十六年二月十二日

獨立歩兵第十一大隊 兵器委員

昭和六年二月兵器委員會議席上於ケル高級參謀口演要旨

皇紀二千六百年聖戰五年ノ新春ヲ迎ヘ戰線ハ黑龍ノ寒
地ヲ佛印ノ熱地ニ亘リ擴大シ國際情勢ノ變化ニ伴ヒ國家ハ
將興七ノ重大楔機ニ際會シ吾等ハ愈々其ノ職責遂行ニ
邁進スベキヲ痛感ス茲ニ諸官ト會同スル機ヲ得兵器戰力
刷新向上ニ關シ研究スルハ誠ニ急義深キモノト思惟ス

當兵團兵器一般ノ狀況ハ諸官並ニ關係者ノ不斷ノ努力ニ
依リ目下作戰訓練ニ支障ナシト雖モ昨年度普中作
戰以來主要兵器ニ於テ相當多數ノ七失毀損アリ之ヲ復

當六尚相當日數ヲ要スルシ之ニ對スル補給ハ必スシモ所望
如クナラサル狀況ニアル等兵團兵器勤務ハ更ニ飛躍的ニ改善
向上ヲ要スルモノ多キニ鑑ミ諸官ニ對シ一層ノ奮勵努力ヲ
要望ス

一兵器戰力ヲ最高度ニ發揚

兵器整備概テ完備セル今日戰場ニ於ケル兵器勤務ノ眼目ハ作
戰要求ニ即應シ常ニ兵器戰力ヲ最高度ニ發揚スルニアリ故ニ
強中擊必殺無故障ノ域ニ達セシメ且不注意ニ依ル兵器ノ七
失ヲ絶對ニ防止シ兵器識能及尊重心ノ向上取扱保存ノ徹底
補給修理ノ適切ト相俟テ兵器整備ノ完壁ヲ期セサルヘカラス
一保管兵器ノ整備ト運用

危大ニ數テ必要トスルニ係ス外國品ノ入手困難トナリ北支軍ニ對テ
ル相給又意ノ如クナラサル狀況ニ於テハ諸官熟知ノ通り茲ニ於テ
爾後ニ於ケル兵器業務ノ現在保有ノモノ、整備充實ヲ圖リ其
運用融通ヲ適切ナラシメ以テ作戰ノ遂行及教育訓練ヲ積極
的ニ推進スル如ク施策スレバ要ス之兵器尊重心ヲ極度ニ高揚セ
ルニ所以ナリ

諸官宜シク如上ノ情勢ヲ觀察シ兵器業務ノ刷新ヲ計リ意
檢査ヲ勵行シ常ニ兵器ノ現況ヲ知悉シ作戰ノ推後訓練ノ要
求ヲ察スル如ク兵器ヲ整備シ之ヲ運用ノ妙ヲ發揮スル如ク勤
務ノ重シク指嚮セシムト望ム

兵器關係軍需資源取得利用蒐集

聖戰ノ永續ト國軍拡大ニ隨伴スル國內資源ノ需給關係加
ヘテ對米條約破棄等ニヨリ兵器資源ノ入手困難トナリクルヲメ
現地ノ資源獲得ハ作戰ニ隨伴シ更ニ徹底ヲ要望ス已ニ送付シ